

1 駅周辺地区の現状と課題

① 上位・関連計画における位置づけ

- 「滝川市総合計画」では、JR滝川駅周辺エリアにおいて、建物の老朽化や空き店舗の増加が進み、地域の衰退を招いていることから、今後、良好な街並み景観や魅力ある都市機能の形成、にぎわいの創出が必要であるとしている。
- 「滝川市立地適正化計画」では、JR滝川駅から市役所周辺までのエリアを都市拠点と位置づけ、駅周辺地区における滞在・交流を生む拠点形成^(※1)やウォーカブルで魅力を高める取組展開^(※2)また重点的な居住誘導を推進することとしている。

※1 広場等の滞在・交流の創出/様々な都市機能が複合する拠点/都市間/バス等の利便性向上
※2 老朽化建物の解体支援/誘導施設の新設/空きビル・空き家・低未利用地等の利用促進

駅周辺地区の課題

- 多くの人々が訪れ、多様な交流を生むため、来訪目的となる場の創出が必要。
- 日常的な賑わいを形成するため、来訪者の滞留性を高める取り組みが必要。
- 地区の景観や魅力を向上するため、大型空き物件や空き地の流通促進、空き店舗等の利用促進を図る取り組みが必要。
- 居住誘導を推進するため、快適な居住環境の形成に向けた取り組みが必要。

2 将来ビジョン

行きたい・住みたいエリアに転換し 豊かな生活シーンを創出する

次世代を担う子ども・若者の笑顔があふれる魅力的な「まちなか」

3 取組方針

方針1：交通結節機能を活かした交流滞在拠点の創出

- 交通結節機能を有するポテンシャルを活かし、市民が日常的に訪れ、滞在する交流滞在拠点を創出。
- あらゆる世代間の交流を推進するとともに、市内外の多様な人とのコミュニティ形成を促進。

方針2：居心地が良く滞在したくなる空間の形成

- 公共交通機関を利用する行き交う人達も滞在したくなる、居心地の良い空間を形成。
- 学生による放課後利用や若者の交流、多様な世代の談笑、ミーティング、コワーキングなど、多様な人々で賑わう「第3の居場所」を形成。

方針3：魅力あふれる歩きたくなるエリアの推進

- 空き店舗の利用促進や低未利用物件の機能更新を促進し、学生や若者の起業、チャレンジを後押しする場の形成やエリアの魅力、生活の質を高めるような機能を誘導。
- 暮らしの利便性を高め、快適な居住環境の形成を推進する。

方針4：官民協働によるまちづくり

- 市民や関係団体、企業、行政が連携し、協働することで取組を推進。
- 行政によるハード整備においては、民間活力の導入を検討するとともに、その施設の活用や運営面等においても連携し、官民協働によるまちづくりを推進。
- 管理者不在物件の更新等を図るため、地権者や企業等との協議、連携を促進。

② 駅周辺地区の現状

- 滝川神社例大祭などのイベントでは、多くの人が訪れる場となっている一方、日常的な賑わいにはつながっておらず、歩行する人は限定的と言える。
- 交通結節点であることから多くの利用者による往来はみられるものの、滞在までには至らず、通過に留まっている。
- 空き地、空き店舗等の低未利用地や管理者不在の大型空き物件が発生しており、景観や魅力の低下を招いている状況にある。
- 栄町地区に居住する世帯数は、市全体の推移と比較して増加傾向にある一方、人口に関しては、減少傾向にある。

4 取り組みの展開方針

